

第4回 横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会 会議録	
日 時	平成27年1月30日（金）9時00分～11時00分
開 催 場 所	市庁舎5階 関係機関執務室
出 席 者	金子 修司、佐々木 葉、佐土原 聡、鈴木 伸治、藤野 次雄、森地 茂、 山下 真輝（7名） ※敬称略
欠 席 者	新井 鷗子、池邊 このみ、齋藤 貢一、中村 文彦、矢ヶ崎 紀子、湯浅 真奈美（6名） ※敬称略
開 催 形 態	公開（傍聴人4人）
議 題	1 市民意見募集の実施結果について 2 横浜市都心臨海部再生マスタープラン 答申（案）について 3 その他
決 定 事 項	今回の意見を踏まえた修正の確認については、会長一任とし、答申としてまとめる
議 事	<p>（1）横浜市都心臨海部再生マスタープランについて</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おはようございます。定刻になりましたので、これより第4回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。</li> <li>・それでは、まず、配布資料の確認をいたします。資料は全部で次第と、資料1から4と参考資料1まででございます。順番に確認をお願いいたします。まず、次第でございます。次に、資料1「横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会委員名簿」、資料2「第4回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会座席表」、資料3「横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）に対する市民意見募集の実施結果」、資料4「横浜市都心臨海部再生マスタープラン答申（案）」、最後に、参考資料1としまして、「第3回の審議会会議録」、こちらにつきましては、各委員の方々にメールにてご確認いただきましたことをご報告させていただきます。以上となりますが、過不足はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</li> <li>・それでは、本日の審議会についてですが、現在、6名の方がご出席でございますが、過半数は7名の出席でございます。佐々木先生がいらっしゃるということなのですが、悪天候の関係で遅れられているのではと考えられます。もし、審議までに到着が間に合わないことも想定されますので、その場合には、今回の議論の内容をお伝えし、ご意見もいただきながら、まとめていきたいという風に思っております。最終的には、森地会長に確認をいただいて、答申としてまとめられればと思っておりますが、そういった方法で進めてよいか確認をお願いできればと思います。</li> </ul> <p><b>【森地会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たぶん見えられると思いますので、そのとおりに進めてください。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。それでは、審議会の公開の関係ですけれども、横浜市の</li> </ul>

保有する情報の公開に関する条例、および横浜市附属機関の設置および運営に関する要綱に基づきまして、公開での開催となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けておりますので、ご承知おきください。会議の様様を記録するために、事務局側で写真を撮らせていただきますので、あらかじめご了承下さい。なお、一般の傍聴の方の撮影につきましてはご遠慮いただきますようお願いいたします。

- ・それでは、議事に入りたいと思います。これより先の進行につきましては、審議会条例第4条の3に基づきまして、森地会長にお願いをいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

**【森地会長】**

- ・それでは、さっそく議事に入りたいと思います。議事については、その他を除いて2つございます。2つまとめて説明いただき議論したいと思います。よろしくをお願いします。

**【事務局】**

- ・資料3、資料4の説明。

**【森地会長】**

- ・どうもありがとうございました。佐々木先生がまだ来られないので、持ち回りで決定したいと思います。最後の会でございますので、ご自由にご発言いただければと思います。

**【鈴木委員】**

- ・3ページのところで、売場面積を入れてくださいと言ったのは私なのですが、これを見て改めて思いますのは、売場面積が11万㎡増えていて、売上が1.1兆円減っているということは、商業の効率が落ちていて、オーバーストア状態であるということは確実な訳で、その中で重要となってくるのは新しい産業を生み出していくこと。今回、ホスピタリティの部分で観光等を明確に位置付けたのはよいと思いますし、今後の山下ふ頭や東神奈川臨海部やそういったところの事業展開の中で、単に商業を作ればよいという事だけでなく、そこにオリジナルに人を呼べるコンテンツづくりをちゃんとやらないといけないということをコメントさせていただきたい。特段、プランへの変更はない。

**【佐土原委員】**

- ・全体として大変よくまとめていただいていると思います。細かい視点なのですが、3ページのところに統計データがございますが、みなとみらいまたはインナーハーバーに現在どこから人が来ているのか、通勤や買い物や観光でも来ていると思うが、どこの人達がこの地域に来てくれているのか、パーソントリップなどのデータもありますので、それを明確にいただいたら、現時点での相手が見える。東京と比べても、買い物や観光で来ている人の割合が高いのではないかという風に思いますので、そういった事が把握できるようなデータを入れて欲しい。
- ・それとの関連で、新たに追加していただいた12ページのところで、就業者のラ

イフスタイルと居住者のライフスタイルの中に、外から来た方のここでの過ごし方というような視点も加えていただくと、今のことも関連付けて見るができるのではないかと思いますので、検討いただければと思います。

- ・それと、細かい表現ですが、21ページの左上の部分で、環境負荷低減とうたっているが、それに加えて、右側では強靱の話もしていますので、災害時にも止まらないエネルギーの基盤ということで、自立分散型ネットワークというのが、特に、国土交通省でもそこに力を入れて進めると言っておりますので、是非、強靱化ということを左側のボックスの中に表現できると位置付けが明確になるので、それをお願いできればと思います。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございます。何かあればどうぞ。

**【事務局】**

- ・ありがとうございます。データについては、整理して掲載したいと思います。12ページについては、来街者の視点ということで載せられればと思います。環境面についても強靱化ということを左側の四角のところに表現したいと思います。

＝佐々木委員到着＝

**【山下委員】**

- ・ビジターと地域住民の両方にフレンドリーな街を目指そうという部分がかなり出ていると思います。公共交通機関についても、地域住民とビジターに対することが意識されていると思います。さらに環境問題に関する様々な先進的な取組については、世界から見てこの都市がどうユニークなのか、次にどう向かっているのかを示すことが、ある意味国際会議や様々な世界の人達が来る時に、なぜ横浜で会議を開催するのかということの大きな理由にもなると思いますので、大きなチャレンジをこの場所でやっていくということが明確に出てきていると思います。
- ・また、ホスピタリティという言葉がありますが、観光の話で言うと、お迎えするのは地域住民、街の人でなければいけませんので、たとえば、臨海部で外の事業者の方がサービス・事業をしているということでは、本来的な観光ではないという風に思います。つまり都心部臨海部で横浜市民自身が、来訪者を迎えることが、私は非常に重要だと思います。住民の方達が、観光振興は自分に関わることじゃないんだという意識になるには困るという感じがいたします。そういう意味では、例えばエリアマネジメントや、施策5の多様な担い手の参画による都心づくり部分がありますが、このような取組を通じて外の人を迎えることにより、横浜のファンになってもらいたいという思いを持ってエリアマネジメントをするべきだろうと思います。ソフトの面の部分もビジターを迎えるために力を合わせてやりましょうという視点も入れていただくとよいのではないかと思います。感じております。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございます。

**【藤野委員】**

- ・かなり、網羅的に書いていただいている。特に、コメントということであれば、一つは3ページの鈴木先生の言われていた統計データの部分で、逆に私は人口、世帯、事業所数、従業員数の部分でかなり増えてきていると、一定のビジネス集積が進んでいるので、こういうものを更に伸ばしていく視点がもう一つあってもよいのではないか。横浜市の施策としてこういうものを展開してきたことで、こういう結果になっているという風に見ることができれば、そこを更に魅力として増していく、伸ばしていくということが一つの視点ではないのかと考えております。
- ・もう一つは、7ページの世界の都市との比較ですけれども、これを見て、横浜が絶対的に魅力を増して上に上がっていく絶対水準の話と、様々に分類されている魅力・ポイントについて更にどういう方向を目指すかという、そのためにこの絵を使っているのか、それがちょっと分かりづらい。例えば、ロンドンやシンガポールにしろ、それぞれの魅力がある中で、横浜のどういう点をどう伸ばしたらどういところへ行くのかという自分たちが目指している帯グラフ、50年後の横浜がどういう形であるのか、ある程度念頭にあるとわかりやすいのかなという気がいたします。
- ・それから、12ページのところで、その前の基本戦略1が事業者・ビジネスという観点だとすれば、戦略2はその就業者・居住者ということで、事業者側・就業者側・居住者側から見て、どういう魅力ある横浜をつくっていくんだということがポイントだと考えた時に、様々な人達が人を惹き付けて、更に人が集まってくるという、好循環というか、そしてそれを体現しているような資源・人々が溢れていくのが理想です。先ほど横浜で生まれて横浜の魅力を持った人々を育てたいという話を伺いましたが、実際に今、横浜に来ている人は、それほど横浜に住んでいたわけではない。みなとみらいにしても、ここ何年間の中で、こちらに移って来られた方達ではないかと思っておりますので、そういう方達が、魅力に引き付けられた人が、この横浜という、新しい自分たちの居住環境の中で、更に魅力を展開していけるようなサポートができるような環境があると非常によいのかなと考えます。それで、ある程度ストックが積み上がっていると思うので、その積み上がりを実現できる様な、そういったものがあると、さらにブレイクスルーしてよくなると思っております。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございます。

**【金子委員】**

- ・概ねこの審議会が始まって1年、皆さんのご意見をお聞きしたり、まとめてきたりしておりますが、このマスタープランが、最初の頃にお話が出ましたが、横浜

市の施策の中で、どの位置にあるのか。今改めて資料をみると、今行われている色々なものが徐々にこの中に盛り込まれてきたという思いはあるのですが、更にそれをリードしていく大きな概念として提示していく部分をもうちょっと強調できなかったかという気がちょっといたします。一つは、私がここでは是非実現したいと思っていたインナーハーバー構想によるリングの話とか、その痕跡とか、思いと言うか、このエリアを統括的にまとめていくコンセプトとして、港があり、海があり、臨海部に街があり、そこに人々が集まり営みを行っているということが明確に見えていて、それをつなげるものは何なのかというコンセプトが欲しいかなと思った。読み込めば出てくるのでありますが、その辺が少し気にはなります。相対的には非常によくまとめられているとは思いますが。

・最近体験したのですが、横浜の誇るべき都市デザイン行政という言葉が表にも出てきますけれども、たかだか150年の歴史を背負って横浜が戦っていくとか、外国の方々をお迎えしていく、東アジアなど様々な都市の先陣を切っていくためには、中々歴史的なものをきちっと残し活用していくことの難しさも、つい最近知ったばかりで、例えば建築でもモダニズムの建物の悲痛が大変問題になっている。横浜市の中にもいくつかありますし、そういうものをちゃんと守っていく、それが資源であるということをどこかで改めて入らないかなあという気がいたしました。土木の遺構も含め、色々なところできちっと見直しがされていますから、非常によいと思ひまして、新しいまちはもちろん大事で、すばらしいデザインのものできることは都市のポテンシャルになると思うが、歴史的なものに対する活用ということをもう少し入れてもよかったかなというのが一つでございます。

・それから、全体を眺めて、横浜らしさということを我々は常に思っているが、中々回答まではいかない。ないが、横浜らしさ、横浜でなければできないことをやりましょうという思いがきちっと出てきたなと思っておりまして、都市間競争という言葉がございしますが、東京とはまるで違うと私は思っておりますので、是非そのスタンスで、横浜をきちっとコントロールしていきたい、していっていただければという思いであります。以上でございます。

**【森地会長】**

・一番初めにおっしゃった話は、具体的にはどういったイメージでしょうか。抽象的な国際都市として何かという話か、もっと空間的なイメージを持たれたという話なのか。

**【金子委員】**

・抽象的なところはたくさんありますけれども、具体的には、臨海部というところで、これだけの都市が展開されていますけれども、これから行われていくことでもございますし、それをそういう風に一つのまとまりとしてアピールしていくかというところかと思ひます。

**【森地会長】**

・イメージは分かりますけれども、具体的にどういう部分かと。

**【事務局】**

・金子委員からのご指摘に対しての私なりの解釈ですけれども、5地区それぞれが特色ある地区で、横浜はその5地区を都心臨海部として、例えば先ほど東京都は違うということをおっしゃっていただきましたけれども、新宿や渋谷、品川に対しては、都心臨海部全体ということになっていくと思う。それで、5地区それぞれが特色があって、それともう一つは、5地区それぞれがこれまでまちづくりを色々やってきている訳で、開港の地である関内地区のまちづくりと新しい計画的なまちづくりを進めたみなとみらい21地区でまちづくりの考え方が違うというところがあり、それは既に取組が違っている部分があって、また、現在進行形でそれぞれの地区でまちづくりを進めているということがありますので、金子委員がおっしゃっていましたが、それもこの計画の中に反映しなければいけないですし、かといって5地区バラバラということではなくて、マスタープランでは全体としてどうなんだということを打ち出ししないといけないということだと思います。ただ、まちづくりの特色のある5地区ということで、ひとつのコンセプトとして、やっとここまではまとめてきたというのが正直なところで、将来像のページの中でまとめてありますけれども、6つのキーワードに沿ってということで、回答にはなっていないかもしれないがそういう認識でやっております。

**【森地会長】**

・おっしゃっているのは、1ページで、段々広がっていく中で、全体で魅力が更に増していくはずだというその時に、一言で言うとそれはどういうまとめ方だということをおっしゃっているんだと思うのですが。一つの言い方としては、それぞれの地域の人達が全体をレベルアップさせていく時に複数あることの強みを意識してくださいというメッセージが一つありますよね。

**【金子委員】**

・補足させていただきますと、基本的にはこの5つの地区が海に向かって街ができていることが大きな特色・メリットだと思いますけれども。海に向かって存在している、そこにそれぞれの歴史的なものや経緯があって、それを大きく取りまとめるのは、やはり、港から見た横浜の一つの風景。だからこそ、このインナーハーバーのリング構想がありましたが、それのような大きな骨太の概念図のような、臨海部にあるよというそれをどう組み立てていこうかということが骨子としてあるという思いがございます。

**【事務局】**

・ずばりのお答えとはならないと思いますが、先ほど、このプランの位置付けの話のところで、長期ビジョンと、昨年末に議決をいただきました横浜市中期4か年計画がございます。一応、向こうが上位計画ということになっておりますが、作成過程は並行的ですから、お互いの検討をお互いにやりとりをして、プランとしては連携していると思っております。こちらの都心臨海部再生マスタープランに

については、この間27年度予算をつけておりますが、市長の方も都心臨海部の再生と郊外部の再生を大きな柱として打ち出しております。その中で、中期計画とも連動しますが、都心臨海部のプランはこの都心臨海部再生マスタープランなんだと、プラン上の位置付けとしては庁内ではきちっと位置付けられておりまして、その考え方が中期計画にも反映されておりますし、新年度予算にも、早くも反映されはじめていると。先生方のご意見をきちっと実現していこうという庁内の体制になっていることは事実である。それが、対外的に打ち出しが弱いということが、金子委員がご指摘されるとおりあるのかもしれないが、都心臨海部のプランはこれなんだということは強く意識してプランをまとめているところでございますので、これを実現するためにこれからも引き続き取り組んでいこうという姿勢はきちっと持っているところでございます。

**【森地会長】**

- ・たぶん、イメージとして全体の話が一つと、内容として、後半の部分が全部共通事項になっていて、一体としてそれぞれが出て行く表現が打ち出せていないのが悩ましい。機能としてはそれぞれ書いてあるが、弱いよという話も分かる。

**【鈴木委員】**

- ・関連する話かもしれないが、インナーハーバーの議論の中でどういった話をやっていたのかをコメントさせていただきますと、横浜は国際港都建設計画に基づいて降りますので、港都、港の都ということが基本的な考え方で、その時は、港ではなく海ということで「うみみやこ」という言葉、内港地区は港から変わっていくんだというメッセージを出して、「うみみやこ」という風に中心のコンセプト据えようと議論した。金子委員の話を受け、改めてこれを見ると、メッセージとして、都心臨海部再生マスタープランのキャッチコピーは何か、市民に向けてどういったメッセージを出すのかというときに、「輝き続ける世界都市横浜の実現に向けて」というのがメッセージなのか、10ページ目の2050年の将来像である「世界が注目し、横浜が目的地となる新しい都心」がメッセージなのか、そこにどのような意味を込めるのか、最後のところは慎重になったほうがよいのかなと。一点だけ、世界都市というものが何を意味するのかというところで、我々の分野では世界都市論という言葉がございまして、それをイメージすると横浜は金融の中心でも何でもないので、世界都市のヒエラルキーの中に入ると、下の方の一部という位置付けにしかならないので、だからこそ、もっとオリジナリティがある観光とか空間とか色々なものを追求するわけで、世界都市という言葉を使うときには注意して使ったほうがよいのかなと改めて思いました。

**【森地会長】**

- ・たぶん、13ページ目で、1ページ目のところで一体として強さを発揮しますということをメッセージとして表現して、13ページ目でもこういう格好でということにはなっていて、この中でうまく臨海部に近接して集積しているのがものすごい強みですよということを、一応この中には書いてあるのですけれども、その

メッセージが少し弱いので、表現の仕方を少し強い表現にする。それから、次は港から見たときに、この5地区がどうなっていくのか。これは景観上の話かもしれないが、それから、交流軸で結ぶということは書いていて、その形成による狙いの部分を少し具体的な表現にするなど、どこまでできるか調整しましょう。

・佐々木先生はいかがですか？

**【佐々木委員】**

・事前に説明をいただいておりますので、少し私は外れた目線からの感想を2つほど申し上げようかなと思います。一つは鈴木委員が言われていた世界都市という言葉にも関わるのかもしれませんが、世界をまたに駆けて色々と動き続けるビジネスや文化の文脈の中でも、横浜はやっぱりそれなりの存在感を示していこうということが、これからのこういった都市づくりでは、不可欠なのかもしれませんが、その世界経済などもちょっとしたことで変動しやすいというリスクも抱えた世界ですので、そこだけに博打のようにかけるのではなく、より淡々と様々な人がここで生きていけるということが、もちろんこの資料を拝見すると分かるのですが、その世界都市という言葉を使っていくときに気になったことをご紹介します。

・もう一つは、マスタープランというものの作り方、書き方、構成の仕方が、本当に20世紀の後半から難しくなっていて、ゾーニングでこうやってこうやってということを描いてもマスタープランとは言えなくなってきていて、複数の異なるレイヤーからアプローチをしていって、でもそれがバラバラにならない、あるいは、ある人にとってこっちに行こうということの足を引っ張らないように調整していく、プランニングよりマネジメントという言葉が使われたりするのもその表れかと思いますが、そういうことを踏まえながら、このものすごい情報の詰まったこの一連の資料は、私自身も全部読みこなしているかという自信がないくらい多様な視点・考え方・意見を網羅的に漏らさずまとめている資料かなと思います。それで、今後ですね、やはり具体的な何らかのアクションが進んでいく中で、たぶんこの資料の中のこの部分にインスパイアされて何かやっっていこうという参加、つまり全部を理解して全部がこっちに向かっていく中で私はこれをやるということは中々難しいと思いますので、この中のどれかに、これおもしろそうだ、私のやりたいと思っていることとフィットするなあという活動をできるだけ広く裾野を広げて受け止めていけるようなマスタープランの使い方というか、位置付けを考えていただけると、かえってよいのではと思います。それは、この方針に合っているのですかとか、施策のどこに位置付けられていますかということは、行政としては必要かもしれませんが、もっと違う形での、ここから勝手に色々なことがスピノフされていくことが許容できるようなまちづくり活動やアクティビティということになっていくとうれしいかなと思います。そういうことが適切でないという方もいらっしゃるかもしれませんが、私はもっと、同床異夢を認めるというか、そういう自由な感じの存在であって欲しいなというのが一点目



です。

- ・もう一点はですね、私も横浜市さんとの接点は都市デザインという分野が多いので、歴史を活かしたり、都市デザインというものがこのマスタープランの柱になっていく。入れていただいているもので十分だと思っているのですが、たまたま、昨日、隅田川テラスを歩く時間があったのですが、その護岸が、レンガが使われているのですが、笠木の下にちょっとしたオーナメントがあって、その下に石があるのですが、新しく整備された部分はその形は踏襲されているのですが、素材のディテールや質感がまったく違っており、石も石っぽく見えているが薄いものとか、そういう質感やディテールが醸し出す空間の基本的なクオリティの質は、非常に言語化しづらく、まちの空気や雰囲気を変えていくのに非常に大きく影響しているのですが、そういうディテールや素材感を重視したものが最近作りにくくなってしまっている、ノスタルジックに職人不足ということではなくて、モノを作っていくときの仕組みや、そこで働く人達の働き方にもかかわっているなあと、ある意味、下部構造が変わってきていて、今後横浜でもプロジェクトが進み、空間整備が進んでいく中で、横浜で働いて横浜のものを物理的につくっていく人達を育てていくことと、それによって質が保たれていくということは大事だと改めて感じている。
- ・象の鼻は復元していただきましたが、石積みのクオリティを見ると悲しくなってしまう。公共事業が抱えている問題が都市デザインのベーシックな空気を変えていくことがあるので、マスタープランに盛り込めという話ではないが、今後フィジカルにもものづくりをしていくときには、そんなことも含めて、横浜の歴史や性格や横浜らしさのような空気が伝わって欲しいなと思っています。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。その他にはいかがですか。

【鈴木】

- ・15ページの都市デザインのところが非常に気になりますが、金子委員がおっしゃられたとおり、歴史的な建物がいとも簡単に壊されてしまったということで意気消沈していますが、この中で都市デザインを位置付けていただいたのはありがたいと思っております。その都市デザインの中では、これから公共空間を如何に再編していくのが非常に重要という話を第一回目の審議会の際に語らせていただいたかと思いますが、その中でキーになるのが、今ある規制を如何に緩和していくのかということだと思います。色々ところで仕事をしていると、規制緩和でやっていこうという話を聞くが、全般を見て規制緩和をやっていこうというフレーズが全然出てきていないと感じていて、既成概念にとらわれずにやっていこうということをごどこかで触れられているのかお聞きしたい。

【森地会長】

- ・具体的にはどういった規制ですか。

【鈴木会長】

・例えば公共空間で言うと水辺や公園の利用とか、例えばそういったものに対しては、かなり厳しい規制がかかっている、中々難しく、例えばセグウェイにしても、都心臨海部では、道路交通法や、横浜市というよりは、県や国やというところも含めてですが、そういったことができない妨げになっているという状況があるわけで、そういうことがたくさんある、特に公共空間の利用についてはある中で、そういう規制緩和を積極的に進めていけないのかと思うのですが。15ページには、既成の概念にとらわれない空間活用を積極的に進めるとは書いてあるのですが、全体を通してどういった方向性なのかをお聞きしたい。

**【森地会長】**

・道路空間の規制はかなり色々できるようになってきていて、公園の利用もずいぶん変わってきていて、もう少し具体的にはどうか。

**【鈴木委員】**

・例えば水辺のことで言うと、大阪なんかでは水辺の利用を一気に規制緩和すると同時に、水辺に面したところの空間の使い方を大胆に変えていて、事業的に動かしていつているので、規制緩和とあわせて事業的な取組を行っている訳ですけども、そういった意味で言うと、まだまだ棧橋の活用といった面でも横浜はもう少し規制緩和できる部分があるんじゃないかと思っはいる。

**【森地会長】**

・例えば、新潟でも一番厳しかった河川敷のところでも色々な使い方をしているし、ここがまだ足りないということを教えていただけると。

**【鈴木委員】**

・分かりにくかったかもしれないが、ピンポイントでということではなく、総論として空間利用を妨げているものを規制緩和していく方向を打ち出していくのか、打ち出していないのかという質問をしたつもりであった。

**【森地会長】**

・ここ数年でものすごい変わった状況の中で打ち出して書くということは、更にここをもっとやらないといけないということを具体的にイメージして書かないといけない。もう少し具体的に言っただけだとスッと入ってくるのだが。

**【鈴木委員】**

・ただ、実態としては、セグウェイはまだ中々できないし、日本大通りのカフェをもっと数を増やそうという話も、やろうと思えばできるのかもしれないが。運用レベルで参入の障壁みたいなものがどうもあるようです。

**【佐々木委員】**

・たぶん制度としてはできるようになっているのだけれども、具体的に誰に利用を認めてもらえばいいのか、どういったものであれば認められるのかというような、言ってみればマニュアル化しにくい中で実際に動いている運用の中で、なんとなく進んでいないというところがあるのではないかと。

**【森地会長】**

・僕のイメージは日本中で何十もある中で成功している事例が少ない。イベントだけやって、食べ物を食べるとか、これは、規制の話ではなくデザイナーの問題ではないか。規制緩和という役所がしっかりしないと、というイメージが強いが、現実には起きていることは、そういうことではなくて、例えば商店の人達が僕たちはやらないというような合意形成の部分で、例えば名古屋とか、大阪の梅田北とか、ビルの前はきれいだが、よい空間とは思えない中で、規制緩和という言葉の中で、役所がしっかりやれというものではないのに、そういう言葉をいれる。問題はそこにはないのにということではないか。

**【佐々木委員】**

・規制緩和という言葉よりは、当事者の努力で色々できる自由度とか、お互いの合意で決められるような、そういった場とか、そういった支援という意味で、規制緩和という言葉はちょっと森地先生がおっしゃるとおり、誤解を招くかなという気がいたします。

**【鈴木委員】**

・わかりました。

**【森地委員】**

・僕の方からも、今日も聞いて、前から見ているのですが、一つは簡単な話ですが、4ページの6つの事業が何かということが、それだけで大丈夫かというところが気になります。一般の人に不親切かなという気がします。

・国際という言葉は出てくるが、具体的に何をするのか。この中では、海外企業が既に来てますという話しはどこかに書いてあったが、今後誘致しようということが書かれていない。もう一つは国際ビジネスという中で、日本企業や横浜にある企業が国際展開して欲しいということ、国際ビジネスという言葉で何をイメージしているのかがもう少し分かってよい。国際都市だから、企業を誘致したい、あるいは外国人に住んで欲しい、あるいは、外国人に対するサービスをなんとかしたいとか、観光や国際会議と国際ビジネス拠点ということは書いてあるが、後半にはあって前半では国際というが抽象的なので、読んでみてどうかとは思いました。

・それから、最近、二子玉川に楽天とLINEの本社が来て、1万何千人も社員が来るということでちょっと昔からは考えられないことで、何でだというと、まわりの環境がよいということだそうです。内藤先生などもオフィスに対する考え方が変わってきたと言っておられるが、今までは丸の内に出ていたほうがよいというところが変わっている動きかもしれない。だから、横浜も昔一所懸命連れてこようと頑張っていたが、思う様に企業立地が進まない。横浜らしさがあって、アジアの企業が投資するかもしれないという中で、そういった企業誘致戦略があるのかもしれない。そこまでは書けないかもしれないがイメージはしておいたほうがよいかと思います。

- ・もう一点は、港町と言いながら、ロジスティックと関連する話が出てきていない。市場の話とか前には議論をしたが、どうしたものか。二つ目としてはそういったことを何か入れたほうがよいのではないかと。
- ・もう一つは、アジアに貢献しようと言う視点も必要で、得しようということだけでなく、アジアの人達から見た時に、彼らにとってもよいこと、横浜として貢献しましょうということがあってもよいのではないかと。

**【山下委員】**

- ・この会のはじめの頃に言ったような記憶がありますが、かつての横浜には大きな役割があったと思います。歴史的には色々な機能があったと思いますが、果たして今現在、日本の中で横浜がどういう役割を果たしていく都市となっていくのかがちょっと分かりにくくなってきているように思います。開国した頃の日本では、横浜に来ないと様々な情報が得られませんでした。外国人に会わないと世界情勢は分からなかったし、ビジネスも直接こっちに生糸を持ってくることで海外に売ることができたということがありました。その当時は、ここに役割があったということがあったと思いますが、今の時代において、港町にどんな役割があるかということは、私は専門ではないので分からないところがありますが、先ほどロジスティックの話もあったが、現代における港町というものが、ではどういった役割があるのかということが、一般的に役割が分かりにくいのではないかと気がいたしました。現在においては、ハードというよりも、ソフトの面での役割というか、人と人の交流であったり、そこで起こるコトであったり、ゲートウェイ的な役割が現在のこの港町にはあるということ、ここからもう少し発信されたほうがよいのではないかと思います。抽象的ですが、最初の頃にそういった話をしていたかと思います。
- ・それと、もう一つは、先生が「アジアの貢献」という話が出ましたが、課題先進国日本をアジアの人々は色々と見ていて、日本が様々な社会課題をどう解決していくのか注視していて、日本にどんどん視察に来ています。日本で介護保険を導入した時には、介護保険制度の導入を控える韓国の政府関係者が九州にどんどん視察に来られていました。横浜が常に日本を先駆けて国家プロジェクトが来ている訳ですから、これから来たるべきアジアの社会課題を先んじて解決している都市ということを見せることが、横浜ができる大きな貢献だと思いますし、国際会議や MICE を呼び込む大きなメッセージにもなると私は考えます。ハード的なものが先行して見えるが、ソフト的なメッセージ性や物語性みたいなことが重要ではないかという印象があります。
- ・また、観光の視点で申し上げたいのは、ここは世界からクルーズ船がたくさん来る中で、これから想像以上にクルーズ人口が増えていくことが予想されています。アジアは世界でも最大のクルーズマーケットとなると思いますが、その時にやはり、海から見て横浜がどうユニークで美しいかということが問われる

のではと思います。この世界都市総合力ランキングでも、ニューヨークとかシンガポールとか香港とか、それから上海とかシドニーとか、バンクーバーもサンフランシスコも、横浜より上位の都市にあって、だいたい頭の中に海から見える街の風景が思い浮かびます。これから横浜が臨海部をデザインするときに、港から見た時に、あそこの港には行ってみたいと思えるトータルなデザインのあり方について、我々のクルーズを使っている業界からすると大変関心があります。臨海部の開発は民間企業にお願いしてどんどん進んでいく中で、トータルなマネジメントなく建っていくのか、またはこういう風にしていこうというビジョンがあって、民間企業にビジョンに沿って開発をしていただくのか、市として何かそういったメッセージを発信されているのでしょうか。そのあたりの景観のあり方についてのイメージや方向性などがあればお伺いしたいし、世界からクルーズ船をお迎えするために、もう少しどんなものが必要となるのか、もっとメッセージがあるとよいのではないかと思います。他の委員の先生方からも、その部分についてのアドバイスがいただけるとよいのではないかと感じました。以上です。

**【森地委員】**

- ・例えば、アジアへの貢献と言う部分で、アジアの人をどう教育すると言う場合、教室ではなくスポーツセンターでも、新しく作る場所に日本人だけの、柔道でも剣道でも何でもよいんですけども、そういうところにアジアの人を受け入れますとか。それから、タイフェアとか、ビジネスになるかということはありませんが、北海道フェアは儲かるみたいですが、そういったチャンスになるべく作りますとか。あるいは、各国レストランをなるべく誘致することをやりますとか。あるいは、ベトナムに漆塗があるんですけども、日本の漆塗は強いが向こうの漆塗は弱くて、それを日本の職人を連れて行って教えてあげて建設コンサルタントの方が試みている。それから、石膏の飾りで仏像などをつくっているのを、デザイナーを連れて行って商品価値の高いものを作る手伝いをしている。彼は個人でそういうことをやっているのですが、そうやって見てみると、アジアの色々なものでは、自動車工場などでは大企業が教えてあげているが、小間物は誰もやっていない。東急は自由が丘でアジアの小間物の専門店を集めようと言っています。書けとっているのではないですよ。そういうものをイメージして、アジアのために貢献して、それが横浜の国際化に資するとか、そういったニュアンスをどこかにいれられないかなという気がしたところです。

**【山下委員】**

- ・別府では、立命館アジア太平洋大学という半分以上が留学生のところがありまして、その留学生が街中のあちこちでアルバイトをしております。コンビニやマクドナルドにはたくさんの留学生が働いており、ここは日本なのかと感ずることがありました。世界 60・70 カ国の方がそこに住んでいることで、まちづくりにおいて様々な化学反応が起きておりますが、横浜でも同じようなことが起きていると思います。ここがかつての関内の外国人居留地があった時に、同様に外国人と

日本人が交流し、様々なことが起きていたと思います。これからの都心臨海部で、たくさんの外国人も働いていて、日本人と外国人が仲良く楽しく暮らしているということは、それだけでも大きなメッセージ性があるように思っております。そういうことは、ハードの問題というよりもソフトの部分であり、都市の発信するメッセージに共感して、外国人の方達は惹き付けられてくると思います。そういった何かグローバルな観点で都市のビジョンを掲げることが、非常にわくわく感がします。世界各地で色々な紛争や宗教問題がたくさんある中で、ここではそういったことが起きないと言うようなことが、やはり横浜のこれまでの世界の中における役割であるとも感じます。それが基本的な考えとしてあった方が、色々な概念が入ってきてもよいのですが、そういう信念があるのが、何となく横浜らしいなという感じがします。

**【佐土原委員】**

- ・今までの視点とはまったく別なのですが、全体の取組を支える視点として、情報技術をどう活用していくのか、交通にしる、コミュニケーションにしる、ビジネスにしる、環境にしる、すべてに入ってくると思いますが、それについての言及がほとんどないので、是非この地域で高度な情報技術をできるだけ先進的に活用して、これを推進していく考え方を入れていただいた方がよいのではないかと感じます。

**【森地会長】**

- ・技術の話もそうだし、それを活用することで色々なところが変わってくる。ビジネスもそうですし、流通もそうですし、何かそういう柱をどこかにいれましょうね。
- ・それから、先ほどの教育の話で、私の大学は2/3が外国人で、教師も2割は外国人です、30~40人くらいの外国人の客員研究員でいるんです。文科省や世銀、IMF、アジア開発銀行などから奨学金をもらっているのですが、この2・3年で顕著な変化が起こっていて、それは、アジア圏の政府がお金を出すから訓練してくれという要請が来るんです。知事や次官・課長クラスの教員です。決して貧乏ではなく、すごいお金で。研修も、例えば街づくりの研修を横浜国大と連携してやるとか、はじめは大変だが、ある種のネットワークができてくると展開しやすく、よいかもしれません。また、それは役人だけでなく、アジアの学者はものすごい豊かで、日本では外部の研究費を収入にはできないが、アジアやアメリカではそれを半分ぐらい懐に入れるので、マーケットが充実していて、もうちょっと視点がちがっているのかもしれない。雑談で、マスタープランとは直接関係ありませんけれども。是非そういったイメージを持ってアジアに国際的な部分をクリアに出せるようにしましょうね。
- ・あと10分ほどですが、いかがでしょうか。

**【藤野委員】**

- ・先ほど国際ビジネスの話が十分に書けていないのではという話がありましたが私

自身、今、信用金庫というところの研究所にいますが、ひとつ面白いのは、日本はアジアの先進的な課題を抱えているということがありますが、もう一つは高度経済成長期の中で、色々な経験をして現在になってきているので、過去のノウハウが向こうでビジネスとなるような、例えば、向こうでは中小企業向けの金融組織というものはなくて、ほとんど財閥系で押さえられていてそういうところにお金を流すことができないということで、世界やアジアの国に貢献できること、仕事の種となることはたくさんあるので、そういうところへうまく横浜市内の企業にしろ、あるいは、市が支援あげるのがよいのかなというのが一つ。もう一つは、また、たぶんグローバル企業にとって、アジアの中で拠点を持つという時に、現在は円安が進んで、日本にしやすい環境にありますし、日本の企業も安定しつつある中で、例えば香港とかシンガポールに比べて横浜に拠点を置こうとなったときに、金融だけでなく、臨海部にメーカーがあるなど、香港やシンガポールに無いものを持っていて、東京都心に比べたら横浜は立地しやすいし羽田空港にもアクセスしやすく国際化していると、そういった土壌をうまく作っていく。ここを見ると大規模な社会実験や国家戦略プロジェクトということが書いてあるが、日常的な企業活動の魅力を増したり、企業を惹き付けるあるいは日本の企業を横浜で活動させるという様なことも念頭においた表現があってもよいのではないかという気がいたしました。以上です。

**【森地会長】**

- ・すみません。本来なら結構ですということで、しゃんしゃんと終わる話が、更に混乱させるような誘導をして申し訳ないなという風に思いますが、是非、色々なお話があったので、あんまり大きな話をひっくり返すことではないので、表現とか、もう一工夫をしていただければと思います。

**【事務局】**

- ・今いただいたご意見の中で、基本戦略の1の部分について、少し表現あるいは追記等を見直していきたいと思います。国際ビジネスの部分、アジアとの関係の部分。また、佐土原のご指摘の情報技術についても、全体に関わってくる部分だと思いますので、基本戦略の部分かと思います。山下委員のご指摘の港からの景観については、まさに横浜の都市デザイン行政で一番力を入れてきている部分だとも思いますが、その表現をよりはっきりしていきたいと思います。ありがとうございます。

**【森地会長】**

- ・それでは、その他の議題が何かございますか。よろしいですか。それでは、大変ありがとうございました。これは今日ご欠席の方には既にご説明されているのですか。

**【事務局】**

- ・はい。

**【森地会長】**

	<p>・では、取りまとめいただいて、必要があれば、各委員の方にご相談するかもしれませんが、その際にはよろしく願いいたします。それでは、長時間ありがとうございました。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>・ありがとうございました。委員の先生方については、昨年3月から本日に至るまで、ご出席賜りまして本当にありがとうございました。本日の審議会でもいただいたご意見につきましても、できる限り答申に盛り込んでいきたいと考えております。また、議事録につきましても、事務局で作成した後に委員の皆様にご確認いただき、ホームページへアップしたいと考えております。それでは、最後になりますが、都市整備局長平原よりご挨拶をさせていただきます。</p> <p>・何回も話が出てきておりますが、昨年3月から視察も含めまして、4回の審議ということで、本当にありがとうございました。私ども、この一年間、冒頭からご指摘されていたことですが、色々な人の活動に視点を当てるということ、それから、ビジネスとか産業に結びつくということ、また、今日も都市デザインと言う話もありましたが、改めて横浜の資源というか魅力というものをつえなおして、横浜らしさとは何かということを追求するということが全体のご指摘であったと感じておりますが、本日も世界都市とは何なのか、国際ビジネスというのはどんなものなのか、あるいはアジアとどういったお付き合いをしていくのか、あるいは、情報技術というお話もございましたが、中々100点満のプランにはなりませんけれども、中々その議論も収束していかない一方で、行政としてはプランをまとめていかなければならないということもございます。色々なご意見が出るということをプラスに考えますと、大きな可能性もございまして大きな期待感もあるということで捉えております。本日の議論にもありましたが、よい意味で信念を持って柔軟に対応しつつ、プランとして発展させていく視点も大事なあと感じているところでございます。先ほど私のお答えの中で、スピード感を持ってやってくために、もうこのプランが一部動き出している部分もございまして申しましたが、先生方の、この一年間にいただいたご意見に改めて注目しながら、またその背景もつえながら、一つ一つを実行に移していきたいと考えております。本当に一年間どうもありがとうございました。これにてご挨拶とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>資料1 横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会 委員名簿</p> <p>資料2 第4回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会 座席表</p> <p>資料3 横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）に対する市民意見募集の実施結果</p> <p>資料4 横浜市都心臨海部再生マスタープラン 答申（案）</p> <p>参考資料1 第3回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会会議録</p>